

長畝ふるさと通信

【2018年5月号】

■ ながーい田植でした



5月2日から始めた今年の田植えですが、すべてが終わったのは26日でした。雨や強風のせいで田植えができない日何日もあり、大幅に日程がずれ込んでしまいました。田植を待っている苗たちは種もみの中の養分を使い果たし、葉っぱが黄色く変色しかかって飢え死に寸前のももありましたが、何とか田んぼに入ることができ、今は田んぼの中の養分を必死に吸収して生きようとしています。これから気温が上がって適度に雨が降ってくれば回復してくれることでしょう。



田植えにも世代交代があり、今年から積極的に若手を投入してみました。初めて田植機に乗る彼らは、最初こそ慎重に植えていましたが、慣れてくれば次第にスピードが上がり、日焼けした顔にサングラス姿は田んぼの中のドライブみたいな感覚かも…

しかし、経験がない分、それぞれの田んぼの特徴までは把握しておらず、深みにはまって動けなくなるシーンも度々。ベテランおじさんなら、事前に危険を察知して深みを回避しながら見事に植えていくんですけど。何事も経験ですな。

田植機埋まるの図



■ 販売戦略はこれでいいのか……



JA佐渡では平成 30 年産佐渡コシヒカリ(トキ認証米を含む)の販売計画を 29 年産集荷実績 232,732 俵から 250,000 俵に引き上げました。役員のコメ卸問屋へのトップセールス活動や都心での宣伝活動(都営バス錦糸町～東京スカイツリー～東京駅間でのラッピングバス運行や都電荒川線社内でのアニメーション広告の放映など機会があったらご覧ください)、最近では写真のような大型トレーラーへのラッピング広告など販促活動を行ってくれています。これはこれで非常にありがたいことなのですが……根本は消費者のお米離れ、「安きやいいや」的な風潮に業界全体が乗っかるのではなく、根本的に改善する政策を求めていくことではないでしょうか。産地間競争やブランド米合戦も結構ですが、国のコメ政策が本当にこれでいいのかを考えて頂きたいと切に願っています。

■ 今年も元気に生まれました



4 月の下旬、今年もツバメたちがうちの納屋に戻ってきてくれました。昨年作った巣はそのまま残っているのでまるで里帰りです。どういう仕組みで帰巣するのかはわかりませんが我が家では歓迎しています。5 月末には巣の中で大きくなった数羽のヒナが所狭しと鳴いています。あと数日もすれば飛行訓練を繰り返し、エサの取り方を覚え独り立ちしていくことでしょう。また、来年世間の風にもまれ、立派な大人になって帰ってきてもらいたいものです。日大アメフト部の彼も見守ってあげたいですが……。

美味しいコメを食べていれば何事にも立ち向かえると思います。